

1 分野①「栄養・食生活」

- 朝食の欠食については平成 29 年度よりは減少したものの、平成 26 年度と比較すると増加している。また、朝食を毎日食べる子どもの割合も減少傾向が続いている。
- 食塩を多くとる傾向のある人の割合は平成 26 年度と比べると減少しているが、目標値までは至っていない。

2 分野②「たばこ」

- 禁煙サポート実施医療機関数は増えている。
- 喫煙率は年々少しずつ減少しているが、妊婦の喫煙率は平成 29 年度にいったん下がったが再び上昇している。
- 保健センターでの禁煙相談者数の減少については、禁煙外来のある医療機関の増加、特定保健指導の医師会委託、喫煙率の低下等が影響している可能性があると考えられる。
- 市施設での禁煙実施率は施設内禁煙も含めた割合となっているが、目標値には至っていない。

3 分野③「運動・身体活動」

- 短い距離なら歩く人の割合はやや上昇しているが、定期的に運動する人の割合は減少している。日常生活の中で定期的に運動（日 30 分以上の汗をかく運動を週 2 回以上、1 年以上実施）できる人は限られると思われ、短い距離を歩くことのほうが日常生活の中で取り入れやすい傾向があると思われる。
- 中学校の運動クラブ参加者の割合は減少している。
- 運動やスポーツが好きな子供の割合は、小学 5 年生はやや減少しているが、中学 2 年生では増加している。

4 分野④「休養・こころの健康」

- ストレスを感じる人の割合は男性ではやや減少、女性では横ばいであるが、睡眠時間については 15% くらいの方が規則正しく取れていないという傾向は変わらない。
- 自殺者数は平成 29 年に比べ、平成 30 年は約 1.5 倍に増えている。
- 自己肯定感のある小中学生の割合は増えている。

5 分野⑤「歯と口腔の健康」

- 3 歳児歯科健康診査におけるむし歯のない幼児の割合は平成 29 年度と比較し、平成 30 年度は増加している。また、12 歳における永久歯のむし歯経験歯数及び、成人歯科健診における進行した歯周病にかかっている人の割合は、いずれも平成 29 年度と比較し、平成 30 年度は減少している。しかし、いずれの指標も目標値に至っていない。

6 分野⑥「アルコール」

- 多量飲酒者の割合は減少しているが、妊婦の飲酒率が平成 29 年度より上昇している。

7 分野⑦「健康管理」

- メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は特に男性で増加傾向がみられる。
- 生活習慣改善に取り組む人の割合は、男女ともに増加しており、近年、テレビなどの各種メディアで健康情報を取り上げることが多いことも、増加した一因と思われる。
- がん検診受診率の減少については、働く人が増え、職域で受診する人が増えていると推測されることも一因と考えている。
- 小・中学生の肥満傾向の割合については、小学生男子がやや増加している。一方、中学生は男女とも減少傾向を示しており、今後、やせの傾向についても見ていく必要がある。

8 分野⑧「食を通じた豊かな人間形成」

- 評価指標としては次期アンケート結果を待つ。